

## 感謝を込めて招待会開催／JA筑紫共済友の会招待会



10月20日、共済友の会招待会を福岡市の博多座で開きました。招待会は、共済友の会会員へ日頃の感謝を込め毎年開催し、多くの会員が心待ちにしている好評のイベント。今年は、博多座で公演中の「おたふく物語」の夜の部を貸し切って行われました。公演は、健気な姉妹や腕の良い彫金師が登場する、江戸の下町に暮らす庶民を描いた愛と人情物語。会場は、参加者の笑いと感動に包まれました。

公演終了後は、白水清博組合長と役員が、出演者に筑紫米と博多和牛、花束をプレゼントし、地元農産物とJAをPRしました。

## くらしに役立つ展示会開催

JA筑紫は10月21日から3日間「秋のくらしの展示会」を開催し、約千人が来場しました。

展示会は、組合員を対象に、くらしに役立つとともに安全で安心できる商品の提供の場として開催。毎年、沢山の来場客で賑わうイベントです。

21日は、JA本店の特設会場で肥料・農薬・農業資材の特売や農機具・ガス器具等の展示、食品コーナーでは地元農産物、海産物などの販売を行いました。買い物客には特典として、5万円以上お買い上げの方にお楽しみ抽選会の実施や、会場の4カ所に設けられたスタンプを集めた方に粗品をプレゼント。来場客は両手に買い物袋をかかえ、大満足の様子でした。

## 安心まちづくり 9年連続会長賞



JA筑紫は、筑紫野市で開かれた「平成28年度筑紫地区安全安心まちづくり推進大会」で、9年連続となる「筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会長賞」を受賞しました。

大会は、筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会などが主催。一人一人が地域安全運動の担い手として、犯罪などを抑止することを目的としています。当日は、県議会議員、春日警察署や筑紫野警察署、地域防犯ボランティア活動団体・事業所、JA筑紫役職員ら約800人が出席しました。

今回の受賞は、これらの活動が評価されたもの。白水清博組合長は「地域の皆様と協力して絆を深め、安全で安心な住みよい地域づくりの為に、努力を続けていきたい。」と話していました。

## グラウンドゴルフで親睦



JA筑紫女性部は10月18日、JA本店グラウンドで「JA筑紫女性部グラウンドゴルフ大会」を開きました。部員224人が参加し、地区の枠を越え、元気いっぱいプレーしました。

この大会は、女性部員相互の親睦を深め、健康づくりを目的に開催。競技は個人戦で、16ホールの合計打数を競います。部員達は、ランダムに分けられたメンバーでコースを回り、交流を楽しみました。プレー終了後は、ホールインワンを出した7人や、上位入賞者などが表彰され、参加者は、大きな拍手で互いの健闘を称えあっていました。

## 五穀豊穣に感謝／山家岩戸神楽



筑紫野市山家の山家宝満宮で10月17日、氏神様に五穀豊穣を感謝する「山家岩戸神楽」が奉納されました。山家岩戸神楽保存会や山家小学校の児童が、およそ4時間かけ、全部で18の演目を披露。「荒振神(あらふるかみ)」では、舞台上の荒振神が客席へ豪快に水をまいて場を清め、境内に歓声が響きました。神楽は、江戸時代にはすでに舞われていたとされる長い歴史を持ちます。現在は市の無形民俗文化財に指定され、伝統が受け継がれています。

## 地元体育祭に出場 JAをPR／山家支店



JA筑紫山家支店は10月9日、青壮年部の協力のもと、筑紫野市で行われた「第53回筑紫野市民体育祭 山家地区大会」に参加しました。青壮年部のメンバーと支店職員は、リレー競技に出場。組合員や地元住民らから、たくさんの声援が送られました。

山家支店の森木和生支店長は「たくさんの声援を受け、大変嬉しかった。JAのPRに繋がった。」と話していました。

## 伝統神事で実りに感謝／太宰府天満宮「斎田抜穂祭」



福岡県の太宰府天満宮が10月8日、太宰府市で、実った稲穂を刈り取り神々に収穫を感謝する伝統神事「斎田抜穂祭」を行いました。斎田横に設けた斎場での祭典の後、天満宮の巫女が舞を奉納。最初に権宮司が斎田に入り、古式の作法に則って石包丁で稲穂を刈り取り、もんぺ姿の巫女や氏子なども続きました。この日収穫した米は、6月の斎田御田植祭で植え付け、大切に育てられてきたもの。11月の「新嘗祭」で最初にお供えします。その後、天神さまへの朝夕のお供えや、太宰府天満宮の全ての祭典や神事で用います。

## まちの安全に役立てて



JA筑紫は10月6日、筑紫野警察署で、安全安心まちづくりに役立つ資器材の贈呈式を行いました。春日警察署と筑紫野警察署の署長、警察署員、JAの白水清博組合長らが参加しました。

この取り組みは、JAが、2015年11月1日～16年5月31日まで実施した「安心安全まちづくりキャンペーン飲酒運転撲滅マイカーローン」の収益の一部で、安全安心まちづくりに役立つ資器材を購入し、春日署・筑紫野署の防犯協会にそれぞれ贈るもの。飲酒の機会が増える時期に特別金利のマイカーローンを販売し、管内の安全安心まちづくりと飲酒運転の撲滅、交通事故防止を呼び掛けています。今回は、防犯意識を高めるビデオ5本を贈りました。

白水清博組合長は「JA筑紫は、地域密着活動による地域社会への貢献活動を積極的に推進している。資器材を安全安心まちづくりに役立てて頂きたい。」と話していました。

## 若手職員と役員が懇談



JA筑紫は、JA本店で常勤役員と若手職員との懇談会を開きました。平成26年に始まった取り組みで、今回が3回目の開催。元気で明るい将来のJAを考え、常勤役員と今後を担う若手職員が、将来に対する思いや考え、現状を話し合いました。JAの白水清博組合長など常勤役員と総務部職員の7人と、2014年4月に入組した若手職員13人が参加。白水組合長は「人として成長が出来るより良い職場環境を目指し、活発な意見を聞かせて欲しい」と話していました。

若手職員からは、職員の労働環境や直売所の取り組みなど意見が挙がりました。若手職員らしい視点の意見に、常勤役員は頷く場面が見られました。

## お米を育てて、食の大切さ学ぶ／春日市立大谷小学校



春日市立大谷小学校は10月4日、学校敷地内の田んぼで育てる「元気つくし」の稲刈りを実施。JA筑紫の白水清博組合長が参加しました。この取り組みは、大谷小学校の5年生を対象とした、10年以上続く総合学習の一環。JAは、子供達の食育活動をサポートする目的で参加しています。

当日は、白水組合長がカマの使い方や刈り取りの手順などを説明。その後、児童達は田んぼに入り、慣れない手つきながらも懸命に作業を進めました。コンバインで脱穀までしたお米は、今後、天日干しで水分調節を行い、おにぎりにして味わう予定です。白水組合長は「みんなで時間をかけて育てたお米が、立派に育ってよかったです。」と笑顔で話していました。

## 5年目の田んぼアート今年はクジラ！



筑紫野市阿志岐の八尋義孝さん・ひろ代さん夫婦のほ場に、潮を吹いた大きなクジラが姿を現しました。毎年恒例で5回目を迎えた田んぼアートは、地域で親しまれる名物スポット。八尋さん夫婦はこれまでにトンボ、パンダ、ハート、ウサギ、キリンなどの絵に挑戦。「今年の絵はなに？」と、地域住民が心待ちにしています。約20畝のほ場に、大きさ縦50畝、横20畝のクジラを、もち米の黒米とヒヨクモチで表現。10月下旬に収穫、その後、収穫祭として餅つきも行う予定です。八尋さん夫婦は「今回は、曲線部分がとくに難しかった。毎年賑やかに田植えや稲刈りが出来るのが嬉しい」と笑顔で話していました。